

日時：平成29年12月19日（火）

場所：倶知安町役場 3階会議室

事務局	1 開会 2 第5次倶知安町総合計画の検証案についての諮問 町長から、会長へ諮問書を手交（別紙のとおり） ※町長退席
事務局	ただいま、町長から本審議会に第5次倶知安町総合計画検証案を諮問し、これから、審議会の委員で審議することとなります。 ここからは、審議会条例第6条の規定に基づき、会長が議長となり、進行します。
会長	第1回目は諸事情により、欠席となりましたが、3日前から、倶知安らしい雪が降ってきました。平成24年と同じような降り方かなと思われまふ。これから雪とどう楽しむかいうのも、第6次の計画に入ってくるかなと考えられます。第5次の検証を踏まえながら、第6次の策定となるが、新幹線、高速道路、札幌オリンピックと、約10年後に実施されるものもあります。この計画が倶知安町の屋台骨となるというもので、ワークショップは若い世代で行っていますが、この審議会でも、住民が幸せに暮らせるかなど、議論・審議していくので、皆さんのご協力をお願いします。
会長	3 議事 第5次倶知安町総合計画の概要と検証概要について 先ほど、検証案について諮問を受けましたが、事務局から説明します。
事務局	第5次総合計画の概要と、検証案の概要について説明いたします。第5次総合計画の検証、振り返りですが、これまで実施したことがなく、今回が初めてとなります。第5次計画は前期・後期に分かれたものとなっており、後期の基本計画策定時に、議会等より前期の振り返りを実施したかの問いかけもあったため、第6次の策定にあたっては、第5次の振り返りを行うべく、役場内で実施しました。しかし、役場内だけでの振り返りにすることなく、第3者の評価も必要と考え、審議会に諮問したところであります。

事務局

＜第5次総合計画の概要＞

前回配布したファイル資料の3ページから説明します。

第5次俱知安町総合計画について、説明していきます。

町の「羅針盤」として、どこに町が向かっていくのかという「しるべ」が総合計画です。期間は平成20～31年度までの12年間となっており、平成30年度に第6次の素案を作成し、31年度では審議、32年度からスタートといったところです。第5次は12年間で、前期計画・後期計画とも6年間で構成されていますが、後期計画は、事務上、5年間となったところです。

まちづくりの基本姿勢として3項目、理念は住民の参加・参画による自治の確立、12年間でめざす姿（将来像）は、ふれあい豊かに質の高い暮らしと文化があるまちを掲げています。将来像のために、6つの基本目標を掲げています。このほかに、行政経営の方針で5つ、自治を支える仕組みの考え方、協働する取り組みで3本を併せて掲載しています。

5ページ目です。まちづくりの体系について、3ページ目の再掲に加え、基本目標の中に、個別目標がぶら下がっています。この個別目標に事業がぶら下がっていて、この事業が役場の業務となっている。このような体系、総合計画に基づいて役場の業務が行われています。

＜検証の概要＞

事務局

検証の概要について1ページ目をご覧ください。

個別事業、役場の日々の業務・事業について、各担当において自己評価を行ったところです。計画内には、基本目標・個別目標があり、役場の業務は、個別目標を達成するために行っているということになります。5ページに戻りますが、役場のごみ処理については、個別目標である「資源循環があり環境と共生するまちづくりの推進」を達成するために行われています。その他も同様となっています。個別目標を達成することで、基本目標が達成できるという仕組みになっています。

各担当において実施した個別事業の自己評価の基準として、A～Dの4つの基準を設定しています。65ページの次にある資料編をご覧ください。ここには、12年間各担当でどのような事業を行ってきたかを掲載しています。事業数は275事業で、総合計画に基づき実施してきたところです。その次に、各係が行った自己評価シート（横版）であり、裏面には振り返りを文章化したものを掲載しています。資料1ページに戻ります。各係で、個別の自己評価を行い、その後、個別目標と基本目標のそれぞれの評価となりますが、「目標」は

達成されるべきものであることから、自己評価に基づき、個別目標と基本目標の達成率に基づいた達成度で評価をし、評価基準（A～D）を設定しています。第5次計画では、数値目標は設定しておらず、これが第6次に向けての改善点であり、それぞれ設定しようと考えています。このため、第5次計画を無理矢理数値化したところ。資料 53 ページをお開きください。評価基準のA～D評価を数値変換しており、変換方法については、定まったものがなく、当町オリジナルの評価となっています。D評価については、未実施のもの、計画には記載されているができなかったものとなっている。それ以外については、バランスを考えて、数値化しています。個別目標ごとに数値評価の平均を算出し、その平均値に 18 を乗じたものが、達成度となっています。この 18 の根拠は、欄外にA評価は 90～100%と記載しており、90%以上がA評価となり、A評価は5ポイントの数値評価であることから、90 を5で除したものが18となることが根拠。例として、一人ひとりの人権を尊重するという個別目標は、達成率 81.0（4.5 ポイント×18）となり、評価はBとなる。これを踏まえ、すべての項目を評価（数値評価）したところです。資料8 ページをご覧ください。評価はAではなく、Bという評価を付けることは心理上しばしばありますが、これを数値として視覚化すると、これだけの凹凸が生じる。6 ページではすべてB評価であるが、8 ページでは同じB評価でも、数値にすると凹凸となり、第6次計画では、この凹凸をなくする（うめる）ことが、1つの指針になると思われます。このような評価、数値化することで、第6次の策定にも役立つものと考えています。

6 ページをご覧ください。それぞれの基本目標に達成率と達成度評価を記載しており、全体評価は記載のとおり、達成率 80.4%、達成度評価Bとなりました。それぞれの基本目標には、わかりやすくするために行政分野を参考として示しています。これに基づいて、7・8 ページは数値化されています。次回以降、内容を掘り下げて審議いくものと事務局では認識しています。説明は以上です。

会長

ただいま、事務局から説明がありました。読み返して意見を一となりまして・・・評価方法など資料に記載されていますが、読み返すと膨大な量になります。まずもってご意見ありましたら、お願いします。

委員

D評価はポイントが0となっていますが、D評価の事業は今後見直しするのか、それとも中止（廃止）するのか伺いたい。

事務局

今回のD評価は、未実施のもののみとなっており、資料の最後にあるシートにも記載しておりますが、なぜ未実施になったかの理由について記載されています。中には、当初想定していたものと結果が

委員 事務局	異なるものもあります。気になるものがあれば、ご一読願いたい。A・Bなどの評価について、評価は職員が行ったものか。各担当の自己評価となっています。これだけでは役場のみの評価となるので、第三者の目、つまり当審議会でも、職務の専門性なども踏まえて、厳しい視点でご意見をいただきたいところ。
委員	1ページにある評価基準について、D評価は40%未満となっているが、次回、E評価を0%（未実施）として、項目を設けてはどうか。Dは「達成には程遠い」といった内容にして、E評価を加えるということ。
事務局	第5次では数値目標そのものがなかったので、第6次では数値目標を盛り込む方向で考えています。
委員	第5次の検証で、平成31年度までの総合計画に関わるものでよいのか。残り2年間あるが、あくまで、第6次に向けて、つなげていくという趣旨か。
事務局 委員	そのとおりである。 もう1点、計画期間は第5次では12年となっている。教育関連では通常10年、中期で5年となっているが、第6次ではそのようなことを考えているのか。
事務局	検証が終わった後に、第6次計画の策定方針をお示しする予定です。つい先日役場内の策定委員会で、その方針について協議し、案が出来上がったところ。12年という期間は、町長の任期が4年であるということに関連しています。10年となれば、任期とズレが生じる。策定委員会でも12年という案で進めています。
事務局	全国的にも、概ね10年となっています。特に定めはなく、当町は12年に定めたということ。他の自治体では首長が変われば計画を作り直しているところもあります。また、総合計画は首長のマニフェストとは異なるものです。
会長	個々の目標、事業がすべて12年の期間というわけではない。第6次では、ロードマップが必要になると思う。（この目標では3年、この事業は5年など）
委員	配布されたパンフレットでは、文言の統一性がないので、次の計画では統一したほうが良いと思う。もう1点、私自身、社会教育計画の策定に携わっているが、ここで大事にしていたことがあり、すべてに共通していたことが「つながり」であった。お互いに理解しあう、学びあう、夢を実現する、子どもは財産、世代交流も含めて、第6次計画に盛り込んでいただきたい。
事務局	現在、若い世代で、庁内WS、町民WSを構成し、キーワードを探しているところ。委員からの意見は、教育分野などを策定する際、活かしていきたいと考えている。
委員	現在の評価として、達成度は平準化されている。目標に対して、「コ

事務局	ア」になる事業を設定し、達成指標があれば良いかと思う。 全くそのとおり。第6次ではどのような体系になるかはこれからですが、今後意識していきたい。
会長	第5次を策定する際、人口目標を設定してはどうかという議論もあった。数値目標は、ある程度加味しながら、客観的な測定ができるものにした方がよい。個別事業で、日常を維持するもの、改善していくものが混ざっている。仕分けは必要では。
委員	観光関連の数値が低いことは、健全化と思われる。評価も当初Cだったのではと思っているところ。
委員	社会教育委員をしていて、61ページにある図書室の運営事業について、A評価となっています。まちづくり懇談会で図書館の話題となり、階段を登るのが大変などという意見が出ています。どうしてAなのかという疑問が残ります。この評価に基づいて、第6次が策定されるので、精査は必要。
会長	アンケート結果と、役場の評価がずれているものもあり、町民と役場に差が生じている。
委員	図書室は、ルーティーンワークはAとなるが、新たに取り組むものが入ると別。別々にするとわかりやすい。
委員	第5次でやってこなかったものを初めて取り組んでいる。総合計画は町民のものか、職員のものか、いずれにしても、きちんと計画が見られていないと思う。役場職員がいかに自分のものにして、意欲喚起にして進めていけるかが重要。評価もすべてやる必要があるのかという疑問があり、重点的なもののみ評価し、前年度や他町村との比較をし、数値化して職員のやる気を引き出すという仕組みは必要になる。
委員	日常維持するものと事業が混ざっているので、すみ分けは必要。
委員	評価と役場との差があるのではと。すべてを数値化するのは大変な作業で、評価のための評価となると、方向も異なってくると思う。
委員	うまくかみ合うところ（予算、方向性など）で、進めていければ良いと思う。農業分野は、国の事業に左右されるので、結論などは出しにくい現状もある。職員も出て歩いて、聞き取りなどしてみてもどうかと思う。
委員	首長が変わったとしても、町の羅針盤、ゆるぎない理念のもとに、職員・住民ともに情報を共有しあって、12年間となる。ここ数年で、よそから来た人によって、土地の価格が上昇し、マネーゲームの対象となっている。最近読んだ本で、美しい村は、住んでいる人間が美しくしようということから、美しくなるというものであった。これからは、職員に頼るばかりでなく、住民が美しくして、次世代に渡していく必要があると思う。
会長	これから審議会で議論し、「答申」することとなるが、次回は1月を

委員	予定しているので、一定程度目を通していただきたい。まち・ひと・しごと創生総合戦略の資料は参考となるものなので、後日配布する。第6次は、役場に頼るのではなく、官民協働で進めていくことが良いのではと思う。全体を通して、ご意見・ご質問があれば発言を。
事務局	基本目標、個別目標、個別事業のうち、どこまで策定委員会で協議・決定しているのか。
会長	策定委員会は基本計画まで協議するので、個別目標まで協議していく。 他なければ、これで終了します。ありがとうございました。